

「まん延防止等重点措置」適用中での2学期スタート

朝晩の庭先から入る風はすっかり秋の気配を感じさせてくれるようになりました。夏休み期間中、東俣幼稚園の子どもたちは、大きな事故もなく夏休みを無事に終了することができました。このことが何よりうれしいことです。また、7月31日には延期となっていた盆踊りが開催され、子どもたち全員が参加し、可愛い浴衣姿や甚兵衛姿を見せてくれました。

踊りも夏休みに入ったため、覚えているかなあと少し心配していましたが、元気いっぱいに踊ってくれました。子どもたちを褒めたいのと同時に誇りに思うことでした



さて、2学期は運動会や発表会等様々な行事が計画されています。その際には、保護者会の皆様にも御協力をお願いすることになります。ご承知のとおり、夏休み期間中に本県においても、新型コロナウイルス感染症の爆発的感染拡大があり、鹿児島県もまん延防止等重点措置の適用対象地域となりました。感染状況が落ち着くまでは、子どもたちの健康や生命を守るために、行事開催については、規模の縮小や延期、中止も含めた対応をせざるを得ないこともあるかもしれません。保護者の皆様にもご不便をおかけすることになりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

しかしながら、2学期はさわやかな季節であると同時に多くの行事が計画されている季節です。スポーツの秋、読書の秋、収穫の秋、・・・、子どもたちがそれぞれの秋を体験し、成長の糧として欲しいと願っています。今後とも園の保育に対しまして一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



【保育信条：尊いみ教えを聞いて ほとけの子を育てます】

9月の主題

報謝(ほうしゃ)=ありがとう

報謝という言葉は、単に人に対してのお礼ではなく、あらゆる全ての「もの」に対して感謝の念を抱く姿勢と言えます。幼児期の子どもたちには、草花や昆虫とか、小動物とおしゃべりをしている姿がよく見られます。これは大人になると、具体的には現実的な科学観を習得することと引き換えに、いつの間にか失くしてしまうことになる、原始感覚とでも言い表すべき美しい心性に基づくものですが、実はこのように自然と一体となるところから、あらゆる「もの」に対する感謝の心が湧いてくるのです。したがって、動物や植物と心を通い合わせたり、語り合うことのできる心性を大切に育み定着させることは、幼児期における保育の重要な課題であると思えます。今月は、子どもたちの中に「報謝」の心が美しく花開くような保育を目指していきたいと考えています。

